

特別支援学校（知的障害教育部門）における 就労を目指した進路学習の実践的研究

三島賢治¹ 篠原朋子¹

進路学習は教育活動全体を通して取り込まれるが、特別支援学校におけるその組織的・計画的展開は、各学校により様々な状態である。本研究では、県立特別支援学校知的障害教育部門高等部の進路学習実施状況調査を行い、「進路学習の内容一覧 - 社会参加を進める力とその学習シラバス（例） - 」を作成した。あわせて、授業研究等を通して進路学習充実の方法を検討した。

はじめに

平成16年1月、文部科学省のキャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議は、「学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進が必要」であること、また「キャリア発達を促す指導と進路決定のための指導とを、一連の流れとして系統的に調和をとって展開することが求められる」ことなど、職業教育と進路指導の充実を考えるにあたり必要な視点を報告している。

神奈川県でも「平成19年度学校教育指導の重点」で、特別支援学校教育にかかわる三つの重点項目の一つとして「職業教育と進路指導の充実」を挙げた。また、「平成19年度学校運営の重点課題」では、特別支援学校教育に係る重点課題設定の視点に「キャリア教育の推進」を挙げ、その最重点課題を「就労を促進するための職業教育の推進」とするなど、その重要性の認識を示している。

また、県内の特別支援学校知的障害教育部門高等部（以下「高等部」という。）の就職率は、近年全国平均を下回る20%以下で推移してきたが、平成18年度は約29%と大きく伸びた（平成19年度神奈川の特別支援教育資料など）。これは教育と労働等関係諸機関との連携推進など、障害者の就労支援を推進する国の障害保健福祉改革の流れもいかした各校の進路指導の努力によると考えられる。一方、進路指導の基盤である進路学習の各領域・教科等を横断した組織的・計画的な展開については、神奈川県立茅ヶ崎養護学校（2005）や神奈川県立高津養護学校（2007）などの研究があるが、各校による取組の違いが小さく、その共有はまだ十分ではないと考えられる。

研究の目的

本研究は、次の3点に焦点をあてて、高等部におけ

る進路学習の充実に資することを目的とした。

- 進路学習の取組状況を明らかにすること
- 社会参加を進めキャリア発達を促す視点から進路学習の内容を整理し示すこと
- 進路学習充実の方法を実践的に探ること

研究の内容

1 研究の方法

本研究は、次の三つの方法を中心に進めた。

- 進路学習実施状況調査の実施
- 「進路学習の内容一覧 - 社会参加を進める力とその学習シラバス（例） - 」の作成
- 調査研究協力員による授業実践

2 進路学習実施状況調査

(1) 調査方法

知的障害教育部門高等部を有する県立特別支援学校全校（20校）を対象に、平成19年11月に「進路学習に関するアンケート」を実施した。学部長など高等部をまとめる立場の教員を回答者とした。

(2) 調査内容

進路学習全般に関する設問1（8項目）と、進路学習の学習分野ごとにその取組状況を尋ねた設問2（12分野各3項目）で構成した。回答は記号による選択を中心とし、一部を自由記述で求めた。調査用紙には、14分野（第1表）に分けた進路学習の例を添えた。なお、調査前に各学校要覧等から、全校で取り組んでいることを把握できたE作業学習と

第1表 進路学習の分野

A	自己理解
B	将来設計
C	いろいろな仕事
D	職場で大切なこと
E	作業学習
F	現場実習
G	現場実習事前事後学習
H	大人のマナー
I	コミュニケーション
J	余暇
K	金銭管理・消費生活
L	健康的な暮らし
M	独り立ち
N	制度の理解と利用

1 進路支援課 研修指導主事

F 現場実習の2分野については、設問2の対象から除外した。

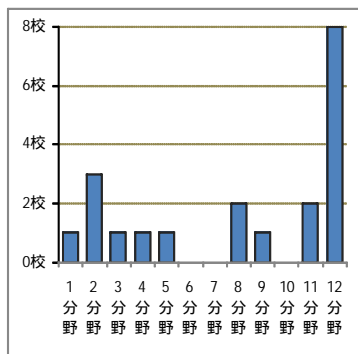
(3) 調査結果

回収率は100 % (20校)であった。回答を分析したところ、次の傾向があった。

ア 高等部としての組織的取組

(ア) 約半数の学校が、3年間の進路学習指導計画の作成、進路学習教材や指導案等の共有、進路学習と他の授業との連携等を高等部として図っていることが分かった。

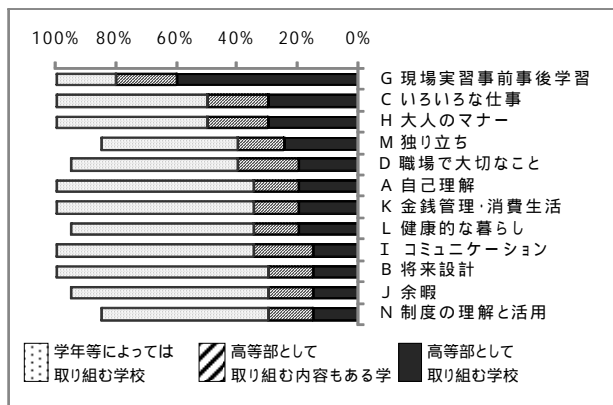
(イ) どの分野を進路学習に位置付けるかについて、学年により異なる学校と、高等部として概ね共通理解されている学校の二つに分かれることが明らかになった。(第1図)



第1図 位置付けが高等部で共通する分野数別の学校数

(ウ) 実際の取組(第2図)は、G現場実習事前事後学習分野以外では、学年や担当

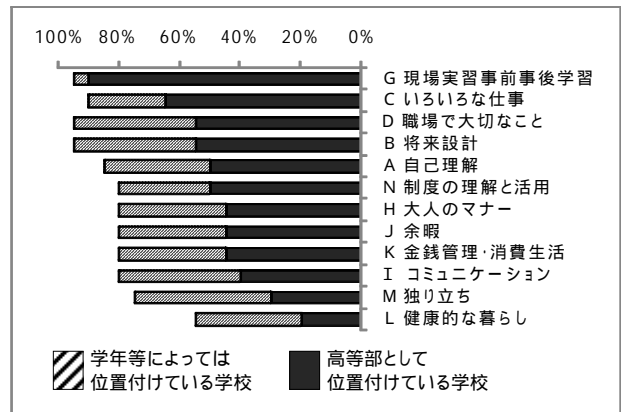
者により異なる学校が60~85%であり、高等部として共通して取り組んでいる学校よりも多い。実際の取組が、各学年所属教員の経験や考え方によっても異なりやすいことが推測された。



第2図 各分野の学習に取り組んでいますか

イ 学習分野による位置付けの違い

(ア) 90%の学校が、G現場実習事前事後学習を、高等部として進路学習に位置付けており、他の分野と全く異なる。次に60%前後の学校で、Cいろいろな仕事、D職場で大切なこと等働くことに関する学習を、高等部として位置付けており、進路先決定の学習にとどまらない取組が多く学校の進んできていることが分かった。(第3図)



第3図 各分野を進路学習に位置付けていますか

(イ) 半数以上の学校が、B将来設計、A自己理解等の自分を知ることに関する学習を、高等部として進路学習に位置付けている。これは働くことに関する学習の次に多い。(第3図)一方、実際の取組を高等部として進めている学校は多くない(第2図)。自分を知ることに関する学習は必要と考えられているが、その取組はまだ組織的ではないことが分かった。

(ウ) L健康的な暮らし、M独り立ち、Iコミュニケーション、J余暇、K金銭管理・消費生活等の分野を高等部として進路学習に位置付ける学校は50%未満であり、先に挙げた分野に比べ少ない。職業生活だけではなく、余暇や家庭生活、経済生活など地域生活全般における社会生活力を高め、社会参加を支援する学習を、進路学習の一部ととらえることはまだ広がっていないことが分かった。

ウ 進路学習を扱う指導場面

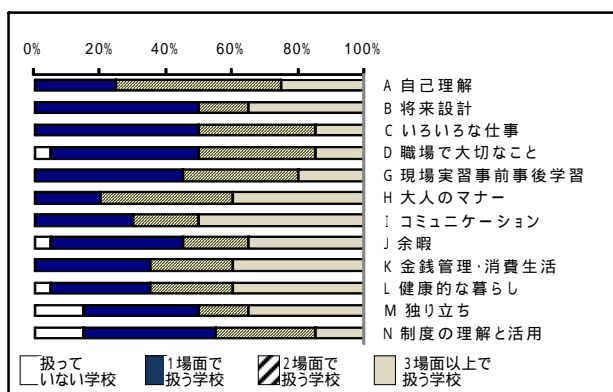
(ア) すべての学校で、12分野の多くを扱い進路学習の中心となっている領域・教科等があった。最も多いのは生活単元学習であり、総合的な学習の時間とこの二つの併用が続く。残る4校では、合科された学校特設科目や、職業科が中心となっている。(第2表)進路学習の中心を生活単元学習など領域・教科を合わせた指導が担っていることが明らかになった。

第2表 中心となる領域・教科等が扱う分野数別の学校数

扱う学習分野数	12分野	11分野	10分野	9分野
中心となる領域・教科等				
生活単元学習	5	1		1
総合的な学習の時間	2	2		
上の二つの併用	4			
その他の学校特設合科		1	2	
生活単元学習と職業科		1		
職業科		1		

(イ) 16校80%の学校が、日常生活の指導で進路学習を

扱っている。いずれの学校でも、日常生活の指導単独で扱う分野はなく、他の指導場面でも扱っている。(ウ) C いろいろな仕事など働くことに関する学習は、1～2の指導場面で取り組む学校が80%以上である。一方、M 独り立ち、L 健康的な暮らしなど職業生活以外の社会生活力に関する分野は、生活単元学習と日常生活の指導と保健体育科というように3場面以上で扱う学校も少なくない。特にI コミュニケーションは半数の学校が3場面以上を挙げ、5場目を挙げた学校もあった。(第4図) これらの分野は複数場面で扱われることが多く、他の教科学習や日常生活の指導などと補い合っていること、そのため各場面の学習内容を共通理解し役割分担する必要があることなどが分かった。



第4図 各分野を取り扱う領域・教科等指導場面の数

エ 進路学習充実の課題

進路学習の充実には、現場実習と日常の学習との関連性強化(14校70%)、自己理解を進める学習の推進(11校55%)、作業学習の充実(10校50%)、進路指導担当者と学級担任との連携強化(9校45%)を重要と考える学校が多かった。

オ 調査結果のまとめ

進路学習について、進路先決定の学習や働くことに関する分野に加え、自分を知ることに関する分野も必要と考える共通理解が進んできており、これらは生活単元学習などを中心にまとまりのある学習として取り組まれていること、一方、余暇や経済生活など地域生活全般における社会参加を進める分野の学習は、いくつかの領域・教科等にまたがって取り組まれているが、その必要性の理解はまだあまり広がっていないこと、いずれの分野の学習も日常生活の指導によって補われており、進路学習は教育活動全体に及ぶこと、また、これらの取組が組織的に展開されている学校と学年等による違いが少なくない学校に分かれることが明らかになった。

3 「進路学習の内容一覧 - 社会参加を進める力とその学習シラバス(例) - 」

(1) 作成のねらい

各学校の共通理解を進め、組織的・計画的な取り組みを助けるため、第4表「進路学習の内容一覧 - 社会参加を進める力とその学習シラバス(例) - 」(以下、「シラバス例」と表記)を作成した。

(2) 作成の方法

調査研究協力員の意見を基に原案を作成し、進路学習実施状況調査の回答を参考に修正を加えた。

(3) 作成の方針

作成にあたっては、教育活動全体を通じて進めるとされるキャリア教育と、WHO(世界保健機関)によるICF(国際生活機能分類)の活動と参加の考え方(第3表)を参考にした。すなわち、進路先決定だけでなく自己理解を進めるなどのキャリア発達支援の視点を持ちながら、勤労観、職業観と社会参加を進める力を育てる学習を進路学習とし、職業生活以外に経済生活や家庭生活、余暇などに関する内容も対象とした。なお、作成の目的から、基準ではなく例として示した。

第3表 「活動」と「参加」の概念について

活動は、課題や行為の個人による遂行のことである。それは個人的な観点からとらえた生活機能を表す。
参加は、生活・人生場面への関わりのことである。それは社会的な観点からとらえた生活機能を表す。
(厚生労働省2007)

(4) 「シラバス例」の構成

ア 項目について

(ア) 「分野」、「単元名・題材名等の例」、「中心となる学習のねらい・つけたい力」、「学習方法の例」、「教科・領域等指導場面の例」、「キャリア諸能力の領域」、「主な実施学年」の7項目で構成した。

(イ) シラバスは一般的に、教科等の教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等を記載した計画書とされる。しかし、一覧しやすい量で広範な内容の評価方法や指導計画などを詳細に記すことは難しく、また各校の共通理解を助けるという作成目的においては重要でないことから、「シラバス例」では評価については「中心となる学習のねらい・つけたい力」を示すことで、指導計画については各項目を概ね学習に取り組みやすい順に並べ「主な実施学年」を示すことで替えた。

(ウ) 単元名や学習方法、指導場面の例を挙げることは、それぞれ固定的な印象を与えるが、イメージを助けるために挙げた。

(エ) 「キャリア諸能力の領域」は、総合教育センターが作成した「キャリア教育推進ハンドブック」(2005)の「キャリア発達にかかわる諸能力」の5能力領域から、主に該当するものを示した。

イ 分野について

第4表 進路学習の内容一覧 - 社会参加を進める力とその学習シラバス(例) -

分野	単元名・題材名等の例	中心となる学習のねらい・つきたい力	学習方法の例	教科・領域等指導場面の例	キャリア能力の領域	主な実施学年
自分を知る	A 自己理解 「自己紹介、私のプロフィール、私のファッション」 「今までの自分、今の自分、これからの自分」 「自分のことアンケート、友だちのことアンケート」 「アセスメントって何？」 「自分発見、良いところとつきたい力、助けてほしいこと」	簡単な自己紹介の方法を身に付ける 自分らしさ、友だちの個性など、人それぞれの好みや表現の違いを知る 小学生、中学生時代の自分を振り返り、成長を肯定的にとらえる 各種アセスメントの受検を通して、自分の特性を知る 自分の良いところと、つきたい力、助けてほしいことに気付く	様々な場面を利用した自己紹介服や装飾小物選びとファッションショー アルバムや家族などからの聞き取り、小中学校教員のビデオレターなどを活用した、今まで頑張ってきたこと、うまくできるようになったことなどの振り返り 自分のことアンケートの記入 各種発達検査や総合教育センターのアセスメントの利用 これらの学習を書き込み、継ぎ足し、振り返る進路学習帳の使用	総合的な学習の時間 生活単元学習 学級活動 など	自己教育能力	1年 2年 3年
	B 将来設計 「進路学習ガイダンス」 「自分史作り、20歳の自分、30歳の自分、60歳の自分」 「進路相談」 「個別の支援計画」	3年間の学習予定を知る 仕事・暮らし・楽しみなど将来の社会参加のイメージを、具体的に描く 自分にあった進路について話し合いながら決める 個別の支援計画作成に参加する	3年間の学習予定カレンダー作り 20歳や30歳、60歳などになったつもりで自分史作り 個別面談、三者面談 個別の支援計画作り	総合的な学習の時間 生活単元学習 学級活動 など	将来設計能力	1年 2年 3年
職業に関する学習	C いろいろな仕事 「学校で働く人」 「学校の近くで働く人」 「先輩の実習、卒業生の職場」 「卒業生に聞こう」 「職場見学」 「仕事しらべ」 「仕事の仲間分け」	身近な人の仕事の様子を、見たり、聞いたり、会ったり、調べたりする 様々な職業があることを知る 働くことの意義や大切さを知る 職業には仕事内容や求められる力など、それぞれ特性があることを知る これらの学習を通して「やってみよう」と思う	家族・学校関係者・学校近隣地域・進路先・上級生・卒業生など身近で働く人を活用した、授業ゲスト、生徒インタビュー、ビデオ紹介、職場見学会など 求人誌、インターネット、新聞などメディアを活用した調べ学習	総合的な学習の時間 生活単元学習 職業科 など	情報活用能力	1年
	D 職場で大切なこと 「学校と職場の違い」 「いろんな人にインタビュー」 「ビジネスマナーを身に付けよう」 「休む時はどうするの？労働条件って何？」	学校の勉強と会社の労働の違いを比べる 働く時の大切なルール(勝手に休まない、安全に気を付ける、報告・連絡・相談をする、指示を守る、正確さを心がける等)を学ぶ 職場にふさわしい服装やふさわしいあいさつなどビジネスマナーを知る 休憩時間の過ごし方を考える 遅刻・欠勤等の連絡の仕方、休暇の取り方、給与と諸手当など労働条件の基本を知る	自分の現場実習や作業学習経験等の振り返り 卒業生など身近な働く人の話の聞き取りなど 仕事上で想定される様々な場面のロールプレイやビデオ、絵カードなどの活用 模擬電話や、休暇届の記入などのシミュレーション 求人票、雇用契約書、就業規則などの読み方	総合的な学習の時間 生活単元学習 職業科 など	情報活用能力	2年 3年
働く	E 作業学習 「1日の仕事を覚えよう」 「My手順書を作ろう」 「目標を考えよう」 「あいさつ・報告強化月間」 「班検定」 「販売計画作り」	働く喜びを知る 働くことが人の役に立つことを知る 働く意欲や自信を持つ 自分の目標を考える 望ましい作業態度や作業習慣を身に付ける あいさつ、返事、報告、連絡、相談など、働くために大切な習慣を身に付ける 時間を守る、正確さを心がける、安全に気を付ける、最後までやり遂げる、できるだけ速く取り組む、協力する等基本的態度を身に付ける 進んで身支度や準備、片付けに取り組む姿勢を身に付ける 持続的に取り組む力を身に付ける 作業工程や役割分担を覚える 必要な道具の安全な扱いに慣れる	各作業班による作業実習 作業日誌作り ポイントメモ作り My手順表作り ミーティング、反省会の実施 強化月間、技能検定などのテーマ設定 パソコンによる作業量管理 文化祭、近隣の商店等における製品販売 校外出張作業	作業学習	情報活用能力	1年 2年 3年
	F 現場実習 「一日体験」 「校内実習」 「グループ実習」 「現場実習」	実際の職場で働く経験をする 1日を通して働く経験をする 2～3週間、継続して働く経験をする 働く喜びを知り、卒業後のイメージを高め就職する意欲を持つ 複数の実習体験を通して、自分にあった職業や職場を考える その他、経験的に学び、働く力を付ける	希望する職場での一日体験 校内実習 企業でのグループ現場実習(教員付き添い) 個別現場実習	校外学習 校内実習 現場実習 など	情報活用能力	1年 2年 3年
実習に関する学習	G 現場実習事前事後学習 「校内実習の会社を作ろう」 「会社の目標、会社の仕事」 「前回の実習を思い出そう」 「私の目標」 「私の仕事と日課」 「上手な面接」 「一人で通勤」 「友達の実習」 「みんなで頑張ろう」 「良かったところ、これから頑張りたいこと」	実習の日課、仕事内容、実習先の決まり等について知る 通勤方法、連絡方法などを知る 今までの学習を振り返り、自分の課題を整理し、実習の目標を立てる 実習を振り返り、良かったところと今後の学習や生活における課題を考える 実習を振り返り、自分にあった仕事や職場を考える	会社作り(校内実習)、実習日誌作り、実習先面接などを通じた日課や仕事内容などの把握 予定される仕事の事前練習 今までの実習や普段の作業学習のビデオ、日誌などを活用した目標作り 実習壮行会、報告会 個別面談	総合的な学習の時間 生活単元学習 職業科 学級活動 など	情報活用能力	1年 2年 3年

分野	単元名・題材名等の例	中心となる学習のねらい・付けたい力	学習方法の例	教科・領域等指導面の例	キャリア能力の領域	主な実施学年
他者との関わり方に楽しむ	H 大人のマナー 「社会人スキル 検定」 「大人のマナー教室」 「お化粧、おしゃれを楽しむ」	身近の処理やあいさつなど社会人として期待される基本的な生活習慣やマナーを身に付ける 場面に応じた化粧や服装などを知る	学校生活の各場面での指導 得意・不得意分野の 検定制度を設定、毎日の身だしなみポイントカード制度導入 卒業生の体験談 化粧品会社やホテルなど学校外の協力を得たマナー教室	総合的な学習の時間 生活単元学習 生活単元学習 日常生活の指導 学級活動など	人間関係能力	1年 2年 3年
	I コミュニケーション 「伝えよう私の気持ち、感じてるあなたの気持ち」 「ちょっと相談してみよう」 「みんなのルール作り」 「携帯電話のマナー」 「仲間と楽しく遊ぶ」 「デートの計画」 「セクハラって何？」	楽しさ、うれしさ、寂しさ、怒り、感謝などの気持ちが伝わりやすい表現を学ぶ 職場や家庭、友人関係など、困ったり悩んだりした時の身近な相談相手を考える 自分の意見を伝え、他人の意見を聞いて、物事を決める話し合いの方法を知る 携帯電話やEメール使用のマナーを学ぶ 遊びへの誘い方など仲間と一緒に楽しむためのマナーを知る 異性との付き合い方のマナーを考える	自分や友達が活動している写真、様々な生活場面の4コマ漫画や絵カードなどに台詞を入れる学習 教員によるやりとりのロールプレイ 教員や生徒自身による誘い方、遊び方のロールプレイ	総合的な学習の時間 生活単元学習 日常生活の指導 国語科 学級活動など	人間関係能力	1年 2年 3年
余暇に関する学習	J 余暇 「休みの日の過ごし方」 「 に行こう」 「趣味の仲間」	自分の余暇の過ごし方を振り返る 交通機関、宿泊施設、公共施設利用の計画の立て方と利用方法を知る 時間と費用を考えた計画の立て方を知る 部活動等のOB会、青年学級、地域や職場のサークルなど余暇を楽しめる場所や仲間を知る	1週間のスケジュール作り インターネットや情報誌による校外学習・修学旅行などの目的地の情報収集と、計画作り、参加サークルマップ作り	総合的な学習の時間 生活単元学習 職業科 家庭科 学級活動など	人間関係能力	2年 3年
暮らし	K 金銭管理・消費生活 「給料と生活費」 「知ってる？携帯電話料金」 「 買い物計画」 「ローン、カードの仕組み」 「チャージがあるから大丈夫？」 「ネットでお買い物」 「キャッチセールス甘い罠」 「しっかり管理しよう、財布、通帳、印鑑、カード、暗証番号」	毎日使うお金と毎月使うお金、必要なお金と楽しむためのお金と貯めてから使うお金など生活費の簡単な分類を知る 収入と支出のバランスがとれた給料の計画的な使い方の大切さを知る キャッシュカード、電子マネー、消費者金融などの仕組みを知る 貯金などによる計画的購入の大切さを知る インターネットショッピングなど通信販売利用の注意点を知る キャッチセールスなど悪質な商法から身を守る方法を身に付ける 財布、通帳、印鑑、カード類、暗証番号などの管理方法を知る	小遣い帳や学級会計簿の記入、家計簿ソフトの利用 レシート、請求書、家計簿、小分け封筒などを使った生活費管理の模擬体験 通帳の記載や電子マネーのチャージと引き落とし記録などを使った模擬体験 教員によるロールプレイやビデオの活用	総合的な学習の時間 生活単元学習 家庭科 数学科 学級活動など	意思決定能力	1年 2年 3年
	L 健康的な暮らし 「健康的な暮らしって何」 「簡単メニュー、楽々クッキング」 「栄養のバランス」 「清潔と健康」 「洗濯機にお任せ」 「リラックスしてる？」 「お酒とたばこ」 「大人も受ける健康診断」 「病院の利用」 「楽しい夜更かし？おいしい大食い？」	働いたり楽しんだりするために健康的な暮らしが土台となることを考える バランスのとれた食生活の大切さと、簡単なメニューの立て方、調理方法を知る 歯磨き、入浴、清掃、洗濯などによって清潔さを保つことの大切さを知る 体と心をリラックスさせ、ストレスを減らす方法を知る 飲酒、喫煙の影響と、ドラッグ等の危険について知る 健康診断の大切さ、健康保険証や病院の利用法、薬の飲み方・管理方法について知る 夜更かし、暴飲暴食などによる健康や仕事への影響を考える	教員によるロールプレイやビデオの活用 調理実習と卒業後も使える自分レシピ集作り エプロン・作業着などの洗濯機使用 清掃活動 ヨガ体操やマッサージ、アロマテラピーなどの体験 栄養士、養護教諭、校医、薬剤師などの授業参加 禁煙教育等のビデオの活用、実験 身近な病院、診療科調べ 薬の効能書きの読み方	総合的な学習の時間 生活単元学習 職業科 家庭科 保健体育科 学級活動など	意思決定能力	1年 2年 3年
	M 独り立ち 「グループホームの生活」 「結婚と子育て、身近な人に聞いてみよう」 「ご近所付き合い、助け合い」 「身を守る、防犯、防災」	グループホームなど独立した生活の様子について知る 結婚や子育てについて考える ゴミの出し方、地域の催し物への参加など 地域生活のルールがあることを知る 火の元や戸締まりの確認、避難所情報等災害への備えなど、防犯や防災について学ぶ	卒業生の話やビデオによるグループホームの紹介、見学など 子育て中の先輩や父母の話、自分の母子手帳やアルバムの利用 自治体広報やHPの利用 教室等のゴミの分別やクラス回覧板の利用 調理室等での火の元・戸締まり指差し確認の習慣化	総合的な学習の時間 生活単元学習 日常生活の指導 社会科 家庭科 学級活動など	将来設計能力	2年 3年
社会に関する学習	N 制度の理解と利用 「困った時は相談しよう」 「障害基礎年金」 「選挙権、決める権利」 「サービスと税金、みんなで作る社会」	就労や生活、余暇の様々な支援サービスと支援機関の場所や利用方法を知る 障害基礎年金について知る 選挙権の行使の仕方を知る 消費税など身近な税金とその使い道を決める選挙や議会など社会の仕組みと、その社会の一員である自分を知る	ハローワーク、福祉事務所、就労援助センター等の見学、各機関による話、担当者面談 支援機関やサービスを利用している卒業生の話 生徒会選挙や各議会選挙の機会の利用 消費税など身近な税金とその使い道の決め方のロールプレイ	総合的な学習の時間 生活単元学習 社会科 学級活動など	将来設計能力	3年

(ア) 自己の特性や成長を肯定的に理解し将来について考える学習を扱う分野を「自分を知る」とした。他の学習を社会生活参加の視点から「働く」、「楽しむ」、「暮らす」の3分野とし、合わせて4の大分野を設けた。さらにA～Nの14の小分野を設けた。

また、進路指導を進路学習、進路相談、現場実習の3要素に分けてとらえることがあるが、互いの関連を意識して高等部3年間の計画性や系統性を考える必要があることから、進路相談及び現場実習についても「シラバス例」に含めた。

(イ) 分類は、固定的なものではない。例えば、「D職場で大切なこと」、「K金銭管理・消費生活」「L健康的な暮らし」「M独り立ち」などから「安全」にかかわる項目を抜き出して集め、新たな分野を設けることも考えられる。学校が「シラバス例」を活用する際に、状況に合わせてとらえ直すことを想定している。

(ウ) 各項目は、各小分野内で、概ね、学習対象を身近なことから広げ、学習方法が関心から探索へ、試行から選択・決定へ進むように留意した。学校の状況や展開の方法により異なる順序となることも考えられる。

(5) 活用

活用しやすいよう整理シート等を加えた『進路学習の内容一覧 - 社会参加を進める力とその学習シラバス(例) - 』活用ガイド』を作成した。

4 授業実践

調査研究協力員校で実施した模擬授業と前後の授業実践を通して、進路学習充実の方法を探った。

(1) 作業学習「農園芸班の新しい作業日誌を作ろう」

第5表 授業実践(1)の概要

単元名等	作業学習「農園芸班の新しい作業日誌を作ろう」
主なねらい	働く上で大切なことの学習を高められる作業学習
主な工夫	通常の学習を丁寧に振り返り強化する時間の設定 身近な作業日誌を基に、視覚的に分かりやすくした教材の工夫
主な結果	働く上で大切なことへの気付きと深まり

作業学習では学習の振り返りや家庭との連絡のために作業日誌を使用することが一般的であり、日誌には働く力に関して作業班や個人の目標が記載されているが、毎回の授業では十分な振り返りができないまま慌ただしく記入することもある。また、卒業後に働く力をつけるために作業学習に取り組むという意識は日常的には強くない。

そこでA校農園芸班では、それまでの日誌の評価を

振り返り、新しい作業日誌の目標を考える「新しい作業日誌を作ろう」という授業を学期の区切りに設けた。各生徒の日誌の評価から、あらかじめ教員が引いた青線＝良かったところ、赤線＝頑張りたいところを探し、良かったところの再現も交えながら、それぞれ青と赤の大きな紙に書き写して黒板に貼り出し、新しい目標を皆で考えた。「赤と青は何?」「そうだ、赤い方は誉め言葉、青い方は注意された言葉だ。」といった生徒同士のやりとりもあり、作業学習で大切なことに対する気付きと思考による深まりを引き出した。

作業活動に一生懸命取り組んで達成感や満足感を得ることに加えて、時間を設けて丁寧に分かりやすく振り返ることで勤労観を深められることとその重要性を示した。

(2) 作業学習「環境班の新しい仕事 - トイレ掃除 - 」

第6表 授業実践(2)の概要

単元名等	作業学習「環境班の新しい仕事 - トイレ掃除 - 」
主なねらい	新しい作業種目の円滑な導入
主な工夫	試行による工程分析と、校内外の助言に基づく工程表等使いやすい教材の工夫
主な結果	理解の促進と、改善提案など積極的に考え工夫して働く姿勢の育成

各学校では、作業学習の充実を図るために、卒業後の就労状況なども考慮して新しい作業種目を導入する機会がある。

B校では環境班の業務の一つとして新たに校舎のトイレ掃除を実施することになった。そこで、工程分析を行い、取り組みやすい工程を決めたり、扱いやすい用具類を整えたりするとともに、進み具合を確かめる「工程表」と仕上げ具合を確かめる「チェック表」などを作成した。これらの教材を使用した模擬授業でトイレ掃除を試行し、その後、現場実習で関係のある企業からの助言も得て改良し、授業に取り組んだ。授業では、生徒から掃除順序改良の意見が出たり、2回目の授業に掃除をしやすくするドアストッパーを生徒が持参するなど、積極的な姿勢が見られた。

試行による工程分析と校内外の助言等によって、工程が分かりやすい工程表、丁寧な仕上がりを求められていることが伝わりやすいチェック表、使いやすい道具等の教材を用意できたことが、生徒による改善提案や積極的に工夫して取り組む姿勢を引き出した。理解しやすさ、目標の明確さが、新作業種目の円滑な導入にとどまらず、考え工夫して働く姿勢を育てる充実した作業学習につながることを示された。

(3) 校内実習事後学習「いろいろな仕事 - 校内実習を経験して - 」

第7表 授業実践(3)の概要

单元名等	校内実習事後学習「いろいろな仕事 - 校内実習を経験して - 」
主なねらい	初めての校内実習経験から、卒業後の仕事への発展
主な工夫	卒業後の情報が豊富な進路指導担当者による授業 先輩などが働くビデオ、分かりやすい学習記入シートなど教材の工夫
主な結果	多様な仕事を身近に感じ、やってみたい仕事を形成

「いろいろな仕事」について知り、自分にあった仕事を考える学習は多くの学校で取り組まれているが、知識を与えるだけでなく、生徒の経験をいかし、身近なことに引きつけて学習させることが重要とされる。

本校1年生では、校内実習事後学習の一部として「いろいろな仕事」の学習に取り組んだ。各自が取り組んだ仕事や「よくできたこと」を振り返りシートに記入して発表することから始め、ビデオで友達の校内実習、2年生の現場実習、卒業生の仕事の様子を見て様々な仕事の違いについて意識させ、やってみたい仕事や向いている仕事を考えさせた。その後の学習では、近隣商店街で仕事に大切なことのインタビューや、短時間体験を行った。また、学習に使った記入シートやまとめの一覧表等は、他生徒や保護者、教員の目に止まりやすい場所に掲示した。なお、進路指導担当者がこれらの授業を担当した。

授業では各自の「よくできた」体験から丁寧に始めたこと、また豊富な情報を背景に進路指導担当者が生徒の感想等に的確なコメントを返したことによって、「やってみたい」仕事への発展が引き出しやすかった。

記入シート等の適切な教材準備と、進路指導担当者の授業参加が、実習体験と職業に関する学習をつなぎ、自己理解や将来設計についても役立つことを示した。

(4) 授業実践のまとめ

これらの実践では、社会参加の力を育てるために、生徒一人ひとりの成功体験を引き出し、友達と共有し、次の学習にいかすための工夫がなされている。具体的には、体験を振り返りながら考える時間の設定と理解しやすく活動しやすい教材等の準備、そのための職務試行を伴う工程分析や十分な情報を得るための進路指導担当者の授業参加、企業等外部機関との連携などであり、進路学習充実の方法のいくつかを示した。

研究のまとめ

松矢ら(松矢2004など)により、東京都の特別支援学校における主体性を支える移行支援を重視した進路学習の実践が報告されているが、今回の研究を通して、

神奈川県においても、進路先決定の学習や働くことに関する学習に加え、自分を知ることに関する学習も必要と考える共通理解が進んできていること、社会参加を進めるという視点の学習も取り組まれていることが明らかになった。また、経験を振り返る設定等の工夫、工程分析の実施、進路指導担当者の授業参加や企業等外部機関との連携など、実践の方法をいくつか示すことができた。一方、学年により進路学習の取組が異なる学校も少なくないことも分かった。今後、各学校における共通理解を図りながら、組織的・計画的に実践を進めることが進路学習の充実につながると考える。

地域就労援助センターやジョブコーチによる支援、就労移行支援事業所の利用など就労支援資源は増え、カスタマイズ就業等多様な働き方も提案されている。余暇支援団体やグループホームなどの生活支援資源も確実に拡大している。これらの情勢も、進路学習の充実を求めている。総合教育センターでは、今後、各学校における組織的・計画的な進路学習の充実に向け、校内研修等における「シラバス例」利用を支援するとともに、研修講座等でも、「シラバス例」を活用し各学校の教材を共有する取組を進めたい。

おわりに

本研究全般にわたり、株式会社ファンケルスマイル取締役浅井輝生氏には、障害者雇用の豊かな経験から可能性を伸ばす教育の大切さなどを、県立保健福祉大学長谷龍太郎教授には、模擬授業の方向性などそれぞれ多くの助言をいただいた。また、調査研究協力員からは、授業実践をはじめ熱心な取組と協力を得た。ここに深く感謝する。

なお、模擬授業は、調査研究協力員所属校を会場に借りて、総合教育センターの進路指導等の研修講座と合同で実施し、研修講座講師の障害者雇用企業や公共職業安定所の方々からも多くの示唆をいただいた。受講者や会場校教員の力も借りている。さらに、アンケートにあたっては県立全校から協力を得た。企業、労働の各機関等と連携しながら進めた実践的な研究となった。助けていただいた皆さんに成果を返せるよう今後の活用を進めていきたい。

[調査研究協力員]

県立保土ヶ谷養護学校	立川 直之
県立保土ヶ谷養護学校	小川 和豊
県立中原養護学校	福田 瑞穂
県立中原養護学校	松田 美香
県立藤沢養護学校	東山 晃
県立藤沢養護学校	塚越 立子

[助言者]

株式会社ファンケルスマイル	浅井 輝生
県立保健福祉大学	長谷 龍太郎

引用文献

- 文部科学省 2004 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために～のポイント」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/s-hotou/023/toushin/04012801/001.pdf (2008年2月取得)
- 文部科学省 2004 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために～」p.15
- 神奈川県教育委員会 2007 「平成19年度学校教育指導の重点」
- 神奈川県教育委員会 2007 「平成19年度学校運営の重点課題」
- 厚生労働省大臣官房統計情報部 2007 「生活機能分類の活用に向けて - I C F (国際生活機能分類):活動と参加の基準(暫定案) - 」厚生統計協会 p.6

参考文献

- 赤塚光子・石渡和実・大塚庸次・奥野英子・佐々木葉子 1999 『社会生活力プログラム・マニュアル 障害者の地域生活と社会参加を支援するために』中央法規
- 泉裕志 「進路学習2005年前期現場実習レポートこころいっぱい」(『実践障害児教育2005.11.Vol.388』学習研究社)
- 松為信雄・菊池恵美子編 2006 『職業リハビリテーション学改訂第2版 キャリア発達と社会参加に向けた就労支援体系』共同医書出版社
- 松矢勝宏監修 2004 『主体性を支える個別の移行支援』大揚社
- 世田谷区立知的障害者就労支援センターすきっぷ 2005 『こうすれば働ける!新しい就労支援システムへの挑戦』エンパワメント研究所
- 全国知的障害養護学校長会 2007 『私たちの進路(あしたへのステップ)』ニチブン
- 全日本手をつなぐ育成会 2001 「自立生活ハンドブック11『ひとりだち』」
- 独立行政法人国立特殊教育総合研究所 2005 「知的障害養護学校における職業教育と就労支援に関する研究」
- 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター 2007 「就労移行支援のためのチェックリスト活用の手引き」
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2002 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)」
- 神奈川県立高津養護学校 2007 『実践研究たかつ第29集』
- 神奈川県立茅ヶ崎養護学校 2004 『茅ヶ崎養護学校の

- 教育第5集』, 2005 『茅ヶ崎養護学校の教育第6集』
- 神奈川県教育委員会 2007 「平成19年度神奈川の特別支援教育資料」
- 神奈川県立総合教育センター 2005 『キャリア教育推進ハンドブック』
- 吉田みち子 2007 「知的障害養護学校における望ましい進路支援のあり方 - A養護学校の追跡調査の結果から進路学習について考える - 」(神奈川県立総合教育センター 2007 『長期研修員研究報告第5集(平成18年度)』)